



学生の皆さん、日ごと寒くなっていますが、いかがお過ごしでしょうか？沼津東都祭も今年で2年目を迎えました。昨年はオンラインでの実施となりましたが、今年は対面式で行い、ゲストは、なんと可愛いセラピー犬が登場しました。（図書館にもセラピー犬についての本がありますので、興味のある方はご利用下さい）この秋は本当に夕暮れが美しく、赤富士と紅富士の両方が楽しめる季節です。赤富士は積雪がない山肌が赤く染まること、また紅富士は積雪が赤く染まることがあります。皆さんご存知でしたか？沼津キャンパス図書館の窓から見えるので是非とも確認してみて下さいね！

第2号 CONTENTS

- ★司書のこの1冊…『甲子園に行くのが夢だった』
- ★教員のオススメ本…精神看護学領域 千々岩友子先生
- ★特集：沼津キャンパスは、昔ホテルだった！？～ホテル沼津キャッスルについて～その②
- ★図書館からお知らせ…NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」コーナー実施中です！ 雑誌棚リニューアル
- ★図書館蔵書点検のお知らせ



～司書が選ぶこの1冊～

今年は、母校の野球部が、春の選抜は38年ぶり、夏は33年ぶりに春夏連続で甲子園に出場しました。私の母校は開幕戦の第1試合だったので、開会式とともに観戦してきたのですが、「聖地」という言葉はこのためにあるのではないかと思うほど、甲子園は球児の心の様に、眩しく、熱く、キラキラと輝いていました。私も地方大会から応援し続けてきたので、この場で応援する事が出来て、本当に感無量でした。野球部の皆さん、素晴らしい夏を有難うございました。

甲子園では残念ながら初戦敗退だったのですが、その試合の帰りに、ふと立ち寄った甲子園球場の売店で1冊の本が目に飛び込んできました。それが今回紹介する『甲子園に行くのが夢だった』です。甲子園に出場するのは東大に合格する確率よりも低いと言われています。それだけ多くの高校球児が目指す「聖地」ですが、かつてその「聖地」で日本中を熱くさせた人物がいました。それが、この本を監修された松坂大輔さんです。皆さんまだ生まれてくる前に甲子園で大活躍された松坂さんは、「平成の怪物」とも言われ、甲子園では横浜高校を春夏連続優勝に導きました。この本は、全国の高校球児の16のお話が掲載されています。この16話のタイトルを見るだけでもう涙。本編は、翌朝は目が腫れてしまうので、私は1話ずつ大切に読むようにしました。好きな事を見つけ、真摯に向き合う事で、結果はどうであれ「甲子園」という夢を追って得たものは、これからも続く長い人生をきっと豊かにしていく事でしょう。今年の夏の大会での選手宣誓の一文に「苦しい時期を乗り越えることができたのは、他でもないここに甲子園があったからです。そして指導者の方々、チームの仲間、家族との強い絆があったからだと確信しています。」とあります。この本を集めているような宣誓でした。皆さんも見つけてください 夢中になれる大切な何かを…



『甲子園に行くのが夢だった』-
監修 松坂大輔 飛鳥新社
※この本は沼津キャンパスに所蔵があります。
請求番号：914・6M



教員のオススメ

「嫌われる勇気」

精神看護学領域 千々岩友



フロイト、ユング、アドラーは心理学の三大巨頭と言われています。今回、お薦めするベストセラーとなった『嫌われる勇気』という本は、アドラーの思想に基づいています。アドラーといつても、皆さんにとっては、聞きなれない人物名だと思いますが、実は、東都大学沼津ヒューマンケア学部の入学式には、大坪理事長が、毎年、皆さんに対して、このアドラーのお話をされています。ご存じでしたでしょうか。

本書は、アドラーの思想に疑ってかかる「青年」とアドラー心理学を熟知している「哲人（哲学者）」の対話形式で物語が展開されています。そのためとても読みやすくなっています。

さて、本書では、どのようなことを訴えているのか、いくつか紹介したいと思います。

「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」、「トラウマは存在しない」、「なぜ自分のことが嫌いなのか」、「他者の課題を切り捨てよ」、「承認欲求は不自由を強いる」、「叱ってはいけない、ほめてもいい」、「ここに存在しているだけで、価値がある」、「対人関係のゴールは『共同体感覚』」、「人はいま、この瞬間から幸せになることができる」、「無意味な人生に『意味』を与えよ」、これらは、本書の小見出しの一部です。この小見出しから、興味をかきたてられる方、あるいはそんなことはないと論破しそうになる方、さまざまな印象をもたれるかと思います。

私は、本書を読んで、世界の見方がひとつ増えたような感覚を覚えました。私の専門は精神看護学なので、特に、対人関係で困っている方への支援の在り方を考えるうえで、参考になるところがありました。また他者の課題を自分から切り離すという考え方があくまで面白いと思いました。

大学生である皆さんの多くは、さまざまな考えをもった人とかかわり、「自分とは何者か」を探求している時期だと思います。学友との語りも然りですが、いろんな本を読んで、皆さんの自分探しに一筋の光が照らされることを願っております。



『嫌われる勇気』
岸見一郎、古賀史健
ダイヤモンド社

この本は、沼津キャンパスに
所蔵があります。
請求番号：146. 1/K



特集：東都大学沼津キャンパスは昔ホテルだった！？… ～ホテル沼津キヤッスルについて～その②

第2号では、ホテル沼津キャッスルから、大学へ、どのように変化をしていったかをお伝えしましたが、今回は沼津キャンパスに現存する、「すごいもの」をご紹介します。1994年4月に天皇皇后両陛下（現上皇ご夫妻）が、静岡県を訪問された際、昼食のためホテル沼津キャッスルに立ち寄られた時に使用された、食器や茶器などについてです。この茶器や食器ですが、当時ホテル側が天皇皇后両陛下のために特別に用意したもので、大変高価なものである事がわかります。当時のホテルの支配人だった方は、昼食の際にも、「恐れ多く、顔も上げられませんでした」と振り返っています。この茶器や食器は沼津キャンパスに特別展示品として、今も大切に保管されています。今回はこの昼食時に使用された食器類をご紹介します。



上皇・上皇后両陛下御使用の茶器類



ホテルの入口にて

記念に作成されたホワイトボード



記念品のタバコには、天皇家の紋章である「菊の御紋」が入っていました。

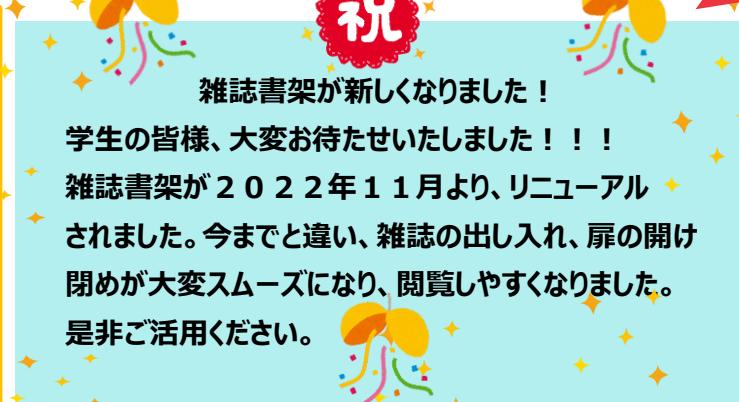
すべて沼津キャンパス所蔵品 1階にて常時展示中



～図書館よりふたたびお知らせ～



図書購入希望（リクエスト）受け付けています！リクエストした本が必ず購入されるとは限りませんが、学生の皆さんのお声をなるべく反映していきたいと思っています。皆さんの図書館です。希望があれば、遠慮なくリクエストして下さい。希望の方はカウンターの「図書購入希望申込書」に記入してカウンターまで。絶賛お待ちしています！



『鎌倉殿の13人』コーナー絶賛実施中！

いよいよ佳境に入ってきました！大河ドラマ『鎌倉殿の13人』。回を追うごとに、執権北条義時の凄みは増すばかりで、毎回その展開に釘付けです。沼津キャンパスの教職員にも鎌倉殿のファンは多く、沼津市のお隣の三島市では、頼朝が源氏再興を祈願した地でもある三島大社があります。その周辺で行われた、「頼朝公旗挙げ行列」では頼朝役の大泉洋さんが行列に登場し、大盛況だったようです。沼津市にも『鎌倉殿の13人』に由来のある人物と関わりがある「大泉寺」というお寺があります。その人物とは、頼朝の異母弟であり、義経の兄である阿野全成です。全成は謀反の疑いをかけられ頼朝の命により滅ぼされます。大泉寺には、その全成の墓があり、今も静かに眠っています。



～図書館蔵書点検のお知らせ～

2023年2月20日（月）～27日（月）の期間、図書館は、蔵書点検を行うため、休館となります。掲示・OPAC・ポータルサイトでもお知らせします。よろしくお願ひいたします。



【第3号】2022年11月30日発行

【発行者】東都大学沼津キャンパス 図書館運営委員会

【編集協力】松田正己 中野禎久 玉城紫乃

【編集】沼津分館司書 中山祐子

